

R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第2124号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210
会長 西本 和夫 幹事 宇田川 茂



広重版画より 三島 朝霧

第2187回例会

2017.11.30 曇

司 会

赤池克斗君

ロータリーソング

「我等の生業」
指揮 遠藤真道君

会長挨拶

会長 西本和夫君

日本では大手の東芝がサザエさんのスポンサーを降る事が決定したようです。磯野家の電化製品は全てスポンサーである東芝製品が描かれています。皆さんは「サザエさん」を知っていると思いますが、両親は波平とフネさん。サザエさんはフネさんの子ではなく波平の前妻の子ですがご存じでしょうか？波平さんの前妻はサザエさんを産んで間もなく、病気が交通事故かで亡くなったようでフネさんはサザエさんの産みの親ではないのでサザエとカツオやワカメちゃんは異母姉弟の関係になるそうです。日本人なら、「サザエさん」を知らない人はいないくらい有名なマンガですが、当初は4コマ漫画で1946年(昭和21年)4月から福岡の地方新聞で連載が始まったようですが、終戦直後の混乱期に再婚や連れ子は当たり前で仲良く暮らす様子を描いたようです。私達は見慣れていますサザエさんの髪型や何年たってもみんな歳をとらないな」というのはさておき、ほのぼのする理由としては、他アニメと比べ笑顔や笑い声のシーンが多いからではと考えられています。二世帯同居、近所付き合い、といった概念を刷り込んでいるのかもしれませんが現代の世相にはあまりにもかけ離れてしまっているのだから「サザエさん」の放映を止めてしまおうと言う声が強いです。最終回の噂話ではカツオが商店街の福引で1等のハワイ旅行を引き当て、一家を乗せた飛行機が海に墜落して磯野家のメンバーが次々と海産物になってエンディングを迎えるという噂話が本当になって海の中へと帰って行くかもしれません。人気のある漫画だからこそ色々な噂話が出るようです。今の二世帯住宅は極力、親子が出会

わない間取りが人気だそうで「サザエさん」の家庭環境は現代では在りえない時代になっています。今、二世帯・三世帯で暮らしている家庭は珍しくなっていました。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 中島あきこさん(鈴木郁夫君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	メンバーアップ	修出席率
前々回	29/40	72.50%	33/40	82.50%
今回	32/39	82.05%	会員総数	45名

欠席者 相山君、鈴木(正)君、須田君、橋本君、花房君、古屋君、前田(邦)君

幹事報告

幹事 宇田川茂君

- ①今月は松本邦夫さん、加藤憲勝さん2名の新会員を迎えることができます。ありがとうございます。
- ②今日の卓話は鈴木郁夫さんです。よろしくおねがいいたします。
- ③来週は、年次総会で次年度の理事・役員の発表がごさいます。指名委員長よりお願いいたします。
- ④秋の叙勲で旭日双光章を受賞された橋本裕子さんより皆様にお祝いの御礼がごさいます。

2017～2018年度
国際ロータリー会長
イアンH.S.ライズリー

ロータリー：変化をもたらす

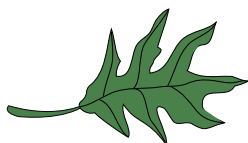
おめでとう

入会記念日 藤江君
結婚記念日 赤池君、遠藤(眞)君



スマイルボックス

- ◆遠藤(眞)君、先日まぼろしの名酒、力正宗を飲みました。最高でした。
- ◆窪田君、川名さん、身延杉の大カウンターをご紹介いただきありがとうございました。本日より身延山久遠寺の杉を製作始めました。よろしくお伝えください。
- ◆前田(博)君、前回の例会にて、田熊さん、森崎さん、野田さん、無茶ぶりにもかかわらず快くスマイルしていただきありがとうございました。感謝です。本日早退します。
- ◆佐野君、早退しますのでよろしくお願いします。
- ◆ゴルフ同好会、11月26日(日)に伊豆ハイツゴルフ倶楽部にて、ゴルフコンペを開催しました。優勝鈴木郁夫さん・準優勝伊丹さん・3位平出さんでした。次回のコンペは、12月17日(日)フジ天城ゴルフ倶楽部で行います。



委員会報告 親睦活動委員会

12月21日(木)18:00よりみしまプラザホテル2Fに於いて三島西ロータリークラブの年末親睦家族例会を開催致します。多勢のご参加をお待ちしています。

卓 話

三島とわたし

中島明子さん

初めまして。鈴木郁夫先生の同門のよしみで、この度貴重な機会をいただきました、泌尿器科の女医の中島明子と申します。8年前、第1子出産後すぐに転勤族の夫についてこの地に転居、繋がりも情報もない中での孤独育児を経て、現在の「一般社団法人ママとね(母親支援団体)」を立ち上げた経緯、そして現在の活動について紹介させていただきます。

独身時代は仕事をバリバリやりたいタイプ。転居した三島では、孤独育児と同級生からおいていかれる仕事の焦りでつらい日々でした。その後、徐々に地域につながりができ、口コミが入るようになり生活は軌道に乗りました。しかし、過去の自分と同様、この地には情報難民のママがいるに違いないと考え、気の合う友人との運命的な出会いをきっかけに、ママ目線の子育て情報サイト「ママとね♡」を2014年2月に自力で開設。以後、市や県の助成金を取得したり、地域の企業様からの支援をいただきながら、母親向けの事業を展開。この10月10日には、4年目となる子育て応援の詩集「トツキトウカ SHIZUOKA EAST」を2万部発行しました。同詩集は、毎年、当団体が制作・発行し、東部全20市町の母子保健課から母子手帳配布時に手渡されています。かつての自分のような、時に孤独で不安な育児生活を送る子育て家庭に、そっと寄り添ってくれることを期待しています。

略歴

1997年 東京医科歯科大学 医学部医学科を卒業、現在泌尿器科の専門医師。

2002年 医局からの派遣でアメリカはケンタッキー州のUniversity of Louisville に1年研究留学。

2007年 アメリカの医師国家試験であるECFMG取得。

首都圏の大学附属病院、地域の中核病院を中心に泌尿器科医として勤務してき、2009年5月第1子の出産および9月に夫の静岡県三島市への転勤が重なり、やむなく常勤職を辞し、以後、非常勤医師。現在、5か所の病院で外来を務めています。

また、三島に転居後、孤独育児で苦勞した経験から、母親支援団体を2014年に立ち上げ、2017年4月に法人化し、現在、「一般社団法人ママとね」としてこの代表理事を務めています。

さらに、産後体調の不良に悩まされた経験から、2016年2月に「静岡ウイメンズヘルス&ウェルネス研究会」を立ち上げ代表として、医療者とフィットネス従事者をつなぐ活動をしています。

(週報担当:伊丹秀之)